

確定稿

朝霞市総合振興計画審議会（第6回）
会議録

平成26年4月4日

政策企画課

別記様式（第4条関係）

会 議 録

会 議 の 名 称	朝霞市総合振興計画審議会（第6回）		
開 催 日 時	平成26年4月4日（金） 午後2時10分から 午後4時50分まで		
開 催 場 所	朝霞市役所 別館5階 大会議室（手前）		
出 席 者	別紙のとおり		
会 議 内 容	別紙のとおり		
会 議 資 料	・ 次第 ・ 審議会委員名簿 ・ 資料番号6－1 個別計画と将来像（目標等）一覧 ・ 資料番号6－2 朝霞市総合振興計画審議会（第5回） 会議録要旨（平成26年2月17日）		
会 議 録 の 作 成 方 針	☒ 電磁的記録から文書に書き起こした全文記録		
	☐ 電磁的記録から文書に書き起こした要点記録		
	☐ 要点記録		
	☐ 電磁的記録での保管（保存年限 年）		
	電磁的記録から文書に書き起こした場合の当該電磁的記録の保存期間	☒ 会議録の確認後消去 ☐ 会議録の確認後 か月	
	会議録の確認方法 委員全員による確認		
そ の 他 の 必 要 事 項	傍聴者 2名		

第6回

朝霞市総合振興計画審議会（第6回）

平成26年4月4日（金）

午後2時10分から

午後4時50分まで

別館5階 大会議室（手前）

1 開 会

2 議 事

（1）第5次総合振興計画基本構想の大綱について（審議会委員によるワークショップ）

3 そ の 他

4 閉 会

出席委員（19名）

第1号 議員	市議会議員	大 橋 正 好
	市議会議員	小 池 正 訓
	市議会議員	田 辺 淳
第2号 教育委員会委員	教育委員会	鈴 木 泰 代
第3号 農業委員会委員	農業委員会	小 峰 保 夫
第4号 市内の公共的団体等の役員・職員		
	朝霞市PTA連合会	渡 邊 誠
	朝霞市社会福祉協議会	野 本 正 幸
	【副会長】 朝霞市商工会	鈴 木 龍 久
	朝霞市青年会議所	吉 山 隼 人
第5号 知識経験を有する者		
	【会 長】 東洋大学法学部教授	沼 田 良
	東洋大学法学部教授	斎 藤 洋
	大東文化大学経済学部教授	中 村 年 春
	大東文化大学環境創造学部准教授	島 田 恵 司
	（有）プロセスデザイン研究所	百 武 ひろ子
第6号 公募による市民		大 石 正 司

佐 野 隆
高 橋 明 子
村 上 靖 子
安 野 さくら

欠席委員（１名）

第４号 市内の公共的団体等の役員・職員

朝霞市自治会連合会

相ノ谷 昌 男

事	務	局	市長公室長	田 中 幸 裕
事	務	局	市長公室次長兼政策企画課長	神 田 直 人
事	務	局	同課主幹兼課長補佐	佐 藤 元 樹
事	務	局	同課専門員兼政策企画係長	大 瀧 一 彦
事	務	局	同課同係主査	又 賀 俊 一
事	務	局	同課同係主任	芦 原 なつみ

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）

◎1 開会

○事務局・芦原主任

それでは、皆さんおそろいになりましたので始めさせていただきたいと思います。

本日、相ノ谷委員から欠席の旨の連絡をいただいております。

まず始めに、4月1日付けの機構改革によりまして、事務局の名称が政策企画室から市長公室政策企画課に変更になりました。また、同日付けの人事異動に伴いまして職員が変わりましたので、御報告いたします。

田中審議監の職名が市長公室長に変わりました。新たに神田政策企画課長が着任し、前任の村山は総務部財産管理課長に異動しました。

それでは、新任の神田課長を御紹介します。

○事務局・神田市長公室次長兼政策企画課長

神田直人と申します。前任は、市民環境部の地域づくり支援課というところにおりました。またこの席をですね、皆さんと一生懸命やってまいりたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○事務局・芦原主任

続きまして、資料の確認をいたします。

本日の配付資料といたしまして、次第のほかに2種類ございます。

一つ目は、【資料番号6-1】個別計画と将来像（目標等）一覧。

二つ目が、【資料番号6-2】朝霞市総合振興計画審議会（第5回）会議録要旨となっております。

また、テーブルごとに「朝霞浪漫」を1冊ずつ置いておりますので、本日のワークショップで御活用ください。

また、第4次総合振興計画後期基本計画（冊子）を御用意しておりますので、必要な方は挙手をお願いいたします。

よろしいでしょうか。

それでは、議事に入りたいと存じますので、議長の沼田会長に進行をお願いいたします。

○沼田会長

皆さん、こんにちは。

急行に乗ってしまいまして、隣の駅から今、タクシーで参りました。遅れて申し訳ありませんで

した。

では、早速会議に入りたいと思います。

初めに、この会議は原則公開としておりますので、傍聴要領に基づいて傍聴を許可することといたします。御了解をお願いいたします。

本日は、何人いらっしゃいますか。

○事務局・又賀主査

二人です。

○沼田会長

では二名の方、傍聴要領にしたがって入場させてください。

○事務局・又賀主査

はい。

(傍聴者入場)

○沼田会長

なお、会議の途中で希望があった場合には、傍聴席の範囲内で入場していただきますので、了解をお願いいたします。

◎2 議事(1) 第5次総合振興計画基本構想の大綱について(審議会委員によるワークショップ)

○沼田会長

それでは、本日の議事ですけれども、前の会議で中村委員から提案がございましたワークショップをやってみたいということで、基本構想の大綱を作る準備作業としてワークショップを進めていきたいと思いますが、この進め方について、事務局からまず説明をしていただきます。

○事務局・又賀主査

それでは、事務局から説明をさせていただきます。

本日の会議は、ワークショップを90分間行い、その後、1グループ5分程度で発表をしていただき、グループでの発表が終わりましたら全体で意見交換をしたいと考えております。

ワークショップの進め方ですが、まずは、第5次計画の最終年度である平成37年度に向けて、「こんな朝霞市にしたい!」ということにいたします。各グループで「ブレインストーミング方式」により自由に意見を出し合ってくださいと思います。その際、テーブルに付箋を置きますので、1つの付箋につき1つの意見を御記入いただきまして、模造紙に貼ってください。ある程度意見が出ましたら、同じような意見を集めて分類、類型化していただきたいと思います。グループごとの意見内容を発表していただき、最後に全体で意見交換を行いたいと思います。

「ブレインストーミング」について簡単に御説明いたしますと、「ブレインストーミング」は、自由にアイディアを出し合うものでございます。アイディアや御意見は付箋に書き出しますが、一つの意見につき付箋1枚を模造紙に貼ってください。

守っていただきたいルールといたしまして、出された意見に対する批判は互いにしないということです。また、結論を出す必要はございません。また、自由に意見を出していただき、質より量を重視してください。

「ブレインストーミング」は、アイディアを結合し発展させるものですから、グループの中で出された意見に対して相乗りしても構いません。とにかく、たくさんの意見を模造紙に貼っていただけたらと思います。

また、本日資料として6-1、6-2と二種類用意してありますが、6-1につきましては、各個別計画で将来像とか基本理念というのがありましたけど、前回そういうものがあった方がいいという御意見がございましたので、こちらの方でまとめさせていただきました。

また、資料6-2につきましては、今回は第5回の流れを受け継いでいますので、出された意見を簡単にまとめてます。前回どんな意見があったのか、その辺も踏まえて参考にさせていただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

○沼田会長

今日の狙いですが、**「こんな朝霞市にしたい！」**というテーマは、恐らく市の将来像に係る、つながるイメージなんだろうというふうに思います。この将来像をどのような理念とか方針で実現していくのかということが次の課題になるわけですが、今日いろいろとアイディアを出していただいたものをグルーピングして、まとめて集約する中から、ぼんやりとその大綱が見えてくるのではないかなという期待をしています。是非、積極的にたくさんのアイディアなり御意見をいろんな視点で出していただくということが、まずは、材料としてたくさんあった方がいいと思いますので、できるだけ忌憚のない御意見を、批判も含めてですね、やっていただければというふうに思います。

まず90分のワークショップということでやっていただいて、その後、残りの時間でグループごとに発表していただいて、更にグループ間の質疑というんですか、応答というんですかね、全体の流れがぼんやりと見えるぐらいで終わろうというふうに、そういう予定であります。お付き合いをお願いいたします。

なお、このワークショップの間、長丁場ですので、それぞれのグループで合意し合って休憩をとるというようなことをやっていただいて構わないと思います。

では、早速ですけどワークショップをそれぞれのグループでお願いいたします。

(ワークショップ)

○沼田会長

それでは、グループごとに発表を行っていただきたいと思います。

Aグループからお願いします。

○百武委員

私たちのグループは、若い人たちがやっぱりここに住んでほしい、10年後も住んでほしいということで子育てに力を入れるとか、教育に力を入れるということを話していました。そのときに、やっぱり朝霞って普通の暮らしができるまちというのも一つの魅力なんじゃないか、実はそんなに特色がないんじゃないかなあという話をしていました。で、その若い人たちにとって、どういうふうなまちが魅力的なんだろうという話と、その一方で高齢者の方にとっては、じゃあどういうまちがいいんだろうというときに、でも元気なお年寄りってたくさんいると、そういった元気なお年寄りが活躍してくれる、そういうまちにしていきたいなと。そういう意味で「若々しいまち」というのが出てきたのは、本当に若い人が住んでくださるということもあるし、高齢者の方が若々しく活躍してくれるまちという意味を込めて、「若々しいまち」というのが出てきました。

そのほかに、経済としても若々しくにぎやかになってくれるといいなと。まちの中で、今だと買い物を外に買いに行ってしまうという現状があるんですけども、なるべく市内でお金落ちるような仕組、例えばシャッター商店街を何かテーマを決めて活性化していったり、小さな商店を応援できるような、そういった仕組ができてくるといいなという話がありました。それによって雇用の増加がしたり、財政が安定していくということが図られていくのではないかという話をしました。

それともう一つ、さっき特色がないんじゃないかという話がありましたけれども、一方でお祭りはすごいよねって。お祭りは、ただイベントとしてすごいというだけじゃなくて、そのお祭りを実現するために、お祭りを中心としたコミュニティとか人のつながりが作られていると。それは、まちづくりにとっても、今後の非常に大きな財産になっていくんじゃないかということで、祭りとコミュニティ、そういうことも含めると「若々しいまち」というのが更に強化されていくんじゃないかと。で、スポーツの振興というのも一つの特徴ではないかという話が出て、それを総合して「若々しいまち」ということが今後の10年後の将来像としては、ふさわしいんじゃないかということに議論としては落ち着きました。

(拍手)

○沼田会長

では、続いてBグループ。

○鈴木副会長

では、斎藤委員お願いいたします。

○斎藤委員

皆さん、こんにちは。

副会長の御指名で私がということになってしまいました。今のAグループを聴きますと、最初にキャッチフレーズ「若々しいまち」というものがあって、それに集約していくという、素晴らしい方式だと思いますが、私たちのグループはむしろ「問題解決型」という発想で、この朝霞市をどういうまちにしたらよいか、ということを出発点いたしました。

つまり、最初に又賀さんがおっしゃったように、「こんな朝霞市にしたい！」という平成36年に向けてということであります。そうしますと、内容とすれば、大きく6つに分けられます。

まず、「健康とか高齢者」。あえて難しいタイトルは付けません。「健康とか高齢者」の問題。それから、「景観とか空間整備」の問題、分野ですね。それから、「歴史と伝統」、「市民生活」、「地域づくり」、「教育」。大きくこのような分野でいろいろな意見が発表されている。で、どうすればよいかが一番大切。今がどうかじゃなくて、どうすればよいかということですね。

そこで、まず「健康、高齢者」の分野につきましては、これはもちろん、可能かどうかというのは別問題ですが、アイディアといたしましては、まず高齢者が遊べるまちづくりをしようじゃないかということ。それから、高齢者のための交通手段を確保しなければいけないですね、足が悪い人もいますし。

また、高齢者に対して朝霞市独自の年金制度を作ったらいんじゃないか。これをやりますと市民が定着します。若い時からずっと定着してくるわけですね。年金額は幾らになるか分かりませんが、それでも。

あとは高齢者用の病院を充実しなければいけない。やっぱり少子化でありますからね、若い子供よりお年寄りが多いに決まっているわけですから、病院を充実しなければいけないのは当たり前のことです。そして、今、埼玉県、東京都も含めて小児科医の保険点数が半分以上ですよ。一般医院に比べて。ですから、小児科医がなかなか作られないということがありますので、そういうことを考えまして小児科の救急、緊急病院、救急病院といいたしまししょうか、少なくとも朝霞市に巨大なものを1個作る。あるいはそれを受け入れることのできる病院を作る。そうしますと、小さい子供を持っている若い御夫婦などは必ず朝霞市に目が向いてくるということになります。そういうことをすることによって、若い世代と高齢者の世代を確保していく。そうすると人口増加につながり、税金も増える。そうするとそれはよい循環に回っていくだろうということがあります。

それから次の「景観」や「空間の整備」でありますけれども、これはいろいろ出ましたが当然ど

ここにでもありますように、交通の安全性の確保ということがあります。

で、これは歩道とか車道を分ける。特に自転車問題ですね。最近も自転車がぶつかって死亡事故を起こして巨額の損害賠償が発生しました。自転車専用の保険も出ました。440円、掛け捨て、月々ですね。とにかく自転車とか歩道とか、車道、これは明確に分類しなきゃいけない。今の車道、自転車用の道路は、狭すぎる、使えない、ということがあります。

それから「景観」、「まち並みの整備」。朝霞市は、いろいろなかたちで緑が多いわけですから、考えなければいけない。たとえば桜ですね、黒目川という非常に有名な川があって。ただ、桜は桜の季節しか咲かないんです。冬は咲かない。それならば、春夏秋冬、それぞれの季節に何かこう、咲く花、草、木、そういうものをそれぞれ考えて作っていけば、春夏秋冬みんな観光客が集まり、市民も楽しめる。そういうような意味での緑、というものを考えたらいんじゃないかということです。

それから、これは前々から出ている駅前整備。私も今日来ましたらどう見てもセンスのない駅前ですね。駅前ってそのまちの顔になりますから、それを何とかしなければいけないということがあります。

そして、ヨーロッパの古いまちではよくありますように、まちの中心に大きな広場があります。そこに、何かイベントがあるとみんなこう集まってきて、そこで直接政治が行なわれたり、いろいろなことが行なわれる。今は直接政治はないですけども、でも、そういうような広場ですね。そうするとそれで、いろいろなチョコレート大会なんか、チョコレート大会ってよく分からないけれども、あるいは物産大会を行うとか、物産展を行うとか、あるいは小中高、小中集めてそこで何か演奏会を開くとかですね、お祭りにも使えるような、そういう市民が使える広い巨大な広場ですね。それをどこか整備して作った方がいいんじゃないかというようなことが、ここでアイディアとして出ました。

それとある程度関連するんですけども、「伝統」、「歴史」。これも考え直さなければいけない。正直申し上げまして、私隣町に住んでいますけれども、朝霞市のことはあまりよく知らなかった。私のいところが朝霞に住んでいたんですけども、でも聴くと、小さな伝統行事がいっぱいある。ならば、それをもっと拡大して、そういう伝統行事をもっと市民に知らせなければいけないだろうビデオ、DVDを作って義務教育の学校に全部配付するとか、あるいは強制的に何か小学生に祭りに参加させるなど。強制はよくないかもしれませんが。

また、今まで祭りと言うと伝統とか、それを守るというような発想が中心でしたけれども、たとえば大きな秩父の夜祭とかね、そういうものだったら、そのまま伝統を続ければいいですけども、朝霞の溝沼獅子舞のような小さな祭りがあるようなところでは、それだけでは人を呼べないわ

けですよ。そうすると、その伝統を引き継ぎながら大きな新しい祭りを作っていくという発想ですね。そうすることによって、朝霞市の市民も自分のまちに対して誇りも伝統も持ち、分かるでしょうし、外からも人が入ってくるだろう。そういうような意味において、伝統を引き継ぐ新しい大きな祭り、イベントというものを考えたらいんじゃないか、そういうようなことが、ここの歴史とか伝統というところで出てきました。

そして、4番目の市民生活ですけれども、これはアンケートを見ますと、朝霞市に満足しているという人たちは便利なところに住んでいる。ところが、満足していない人は不便なところに住んでいる。要は、生活格差がある訳ですね、ショッピングセンターがあるとかないとかというですね。会長から早く終わりにしろという視線を感じるのですけれども、すいません。もうちょっとですから。カラオケと同じようにマイク持たせると駄目なんです。それで、例えばショッピング空間をもう一度整備しましょうとか、もちろん巨大ショッピングモールの設置というものも含まれますね。

あとは仕事場と住居、これが接近した方が当然いいわけですから、工場とか様々な会社を誘致して、そこで職住接近というようなことを図ればいーだろうということ。

あとは一人暮らしの老人対策。もう、高齢者というのは絶対に存在し続ける存在ですから、その対策。例えば詐欺。電話がかかってきて、ディスプレイに相手の電話番号が出ない。あるいは、ディスプレイを持っていない高齢者、黒電話みたいのですね、そういう場合はディスプレイ付きの電話機なんか配付すればいいんじゃないかな、というようなことがいろいろ出ています。

それから、地域づくりということでもありますけれども、今のこの発想、今のここの発想は、市民の方も入っていますし、市民じゃない私みたいなのも入っていますけれども、要は上からの発想ですね。市役所の方がいらっしゃって、という発想です。でも元々は市民がまちっていうものを作っていくわけです。朝霞市にも町内会というのがある。今お聴きたら町内会の活動が弱いというようなことですけれども、その自治会とか町内会を強化する、活用する。もう極端なことを言えば、これはできるかどうか分かりませんが、町内会に自治権を与えて市から予算を与えちゃうんです。予算を与えて、その町内において勝手に好きなことをやりなさい、保育園を作ってもいいですよ、駐輪場を作ってもいいですよ、交番を誘致してもいいですよ、家建ててもいいですよ、何でもいーから予算、権限与えてしまって、そうすると町内会に入っていない人たちも自分のことだから、少し入ってやってみようかっていう気になるんじゃないか。そうすると地域の結束、人々の結束が強まって地域愛も生まれ、市民愛も生まれてくるというような想像をしているわけです。

それからもう一つ、私、知らなかったのですが朝霞市の特産ってニンジンらしいです。全然知りませんでした。すいません。ニンジンが特産品であるならば、そのニンジンをそのまま売るんじや

なくて、少し売れる製品にするわけですよ。こんにゃくで作った「蒟蒻畑」とかありますよね。こんにゃく芋なんて誰も食べないけれど、でも「ニンジン畑」なら食べるかもしれないという、そういう製品化する。その製品にするに当たって、今の農家の人たちは大変にお忙しいので、賞金を出してアイデアを全国から募るといような、それだって構わないじゃないか。とにかく、ニンジンが特産品であるならばニンジンを思いっきり売り出すような、ニンジンと言えば朝霞というようなこともいいじゃないか、ということですね。

それから、市民力の発掘。今、お伺いしてみましたら朝霞市には人口が12、3万いますから様々な特技、能力、資格を持った人たちが埋もれているわけですね。その埋もれた力を、こう、なんか発掘してその人をお願いして、しかもタダでやってもらおうと。市のためだと。予算がかからずにいろいろアイデアが生まれる。そういうようなことも一つ考えられるだろう。

それから、何かこう世界に発信できる地域になりたいな、あるいは、外から人が訪ねてくる地域になりたいなということも、この地域づくりのアイデアの中に含まれています。

最後に「教育」ですけれども、これはどこのグループでも出ておりますが、例えば小中の一貫教育ですね。もう今、都立でも県立でも小中、いや、中高一貫が当たり前になりつつある。高校でも中学でも単位制というものになりつつある。それは何かというと、最終的には今の段階だと大学入試ですね、みんな東大に行きたいんです。京都大学に行きたい。あるいは医学部に行きたい。こんな不安な世の中ですからね。だから、そのためにより良い教育環境を整えているところに人々は当然やってきます。そうすると小中あるいは小中高一貫というのは、一つ良いアイデアではないかということです。

そして、もう一つ、前回私が言いました朝霞市立大学を作ってしまう。小中一貫、ついでに高校も含めてしまえば大学までエスカレーター式の教育。で、文系ならお金がほとんどかからない。で、まじめに普通にやっていたら、朝霞市に住めば小学校から大学まで全部出られますという、そういうようなシステム。なぜならば、若い世代は自分たちの子供をどこに入学させるか、どうやって教育するかということに非常に腐心している。だから朝霞を離れて都内に移る、神奈川県に移るということをしますが、でも、朝霞市でそれだけのことをできれば、移らないです。しかも高齢者年金制度があれば、これはもう絶対移らないです。もう全部併せ技で持っていかなければいけないんですね。で、そういうようなことも考えていいじゃないか。

最後にあと二つだけです。マナー対策ですね。マナーを守っていない。路駐するとか、自転車でもいい加減な運転をするとか、もうちょっとマナーをちゃんと教育しなきゃいけない。交通マナーですね。一般市民はもちろん小学校、中学校でもマナーを教育しなければいけない。

最後に防犯対策。これは広い意味での防犯対策でありまして、先日も、川越市の新富町というと

ころで12歳のキャバクラ嬢が現れた。出会い系サイトのアルバイトで募集し、応募しちゃった。私は行っていないので、どこにあるか分かりませんが、そういうことが起こった。これは、その子の人生もおかしくなりますからね。そういうことも含めて防犯対策というものをこの教育システムの中でしっかりしなければいけないのではないかな。こういうことを一通りやっていくうちに、よい朝霞市というものが生まれ、そして何らかのキャッチフレーズというのが出てくるのではないかなということが、私たちのグループで話し合った内容ということです。すいません、ちょっと長くなりました。ごめんなさい。以上です。

(拍手)

○沼田会長

はい。Cグループお願いします。

○佐野委員

今までですね、市の計画としては、「水と緑のうるおいのあるまち」とか、そういうことが大きくうたわれたんですけども、我々はいろいろ挙げてみたんですけども、今まで挙げたような「水と緑」とか、「豊かな自然」とか、「交通の利便性」とか、それを否定するのではなくて、それを前提にして、なおかつプラスのものがほしいということで挙げてみました。ですから、意外とそこはかなり特化しています。

一番この付箋が多いのが、コミュニティの活性化ということで、どうして多いかというと、これは他といろいろ絡むんですね。単にみんなが仲良くしていればいいやということじゃなくて、「防犯」、「防災」、さっきからありました、その「教育」、あるいは「地域力」とかもろろ絡むわけですね。そういったことでたくさん意見がここに、出されています。

次に多いのがですね、教育の向上ということで子供たちが主ですね。その生涯学習という面もありますけれども、特に子供たちへの教育ということがあります。

それから子育てがあります。この辺からいきますと、どうもその若い人たちに来てほしいというのがもちろんあるわけですね。一方で、それ以上にもっと大事なことが、その子供が就学を迎える頃に引っ越してくる方もけっこう朝霞は多いというようなことを耳にします。それは、その背景としてはですね、少し次の自分の家がほしいと、アパートからですね。そのために、どこかほかに移る方もいるでしょうし、あるいは子供の教育ということから考えて移る方もいると。そうすると、そういう方が去って行かないようなまちにする必要があると。要するに、小さなうち、非常に税金を使うわけですね。乳幼児に対して。ところが、就学したころからそういう費用が少しずつ減ってくると引っ越して行っちゃうと。あるいは年収が上がる年代の人たちが外へ行っちゃうと。これはまずいんじゃないかなと。年収の増加という意味でも。ですから、そういう方たちにとって魅力の

あるまちにする必要があるねということが、かなりこの背景にあります。

この中で、学園都市ということで学校を誘致できないかと。そこのお隣さんのその広い公園じゃない、跡地を使ってですね。以前はそういう話があって、県立大学用意できないかということでは無理だというようなこととかですね、背景がありましたけれども、何かそういった学園都市的なことができないだろうかというようなこともありました。

それから、「環境」とかは月並みなことですが、一部こういうのも一応挙げました。

それから「福祉」、「健康」。これは子供たちもありますけれども、高齢者もあります。

それから、「産業振興」ということで、結局は、人がこのまちに住むということの中で環境という面もあります。環境というのは、緑の環境もあれば子育てとか生活の環境もありますけれども、やっぱり働くところ、場がどこかにないといけないということでの「産業振興」があります。この中には、その休耕地ですね、耕されていない田んぼや畑もたくさんあると。そういうのも何かもっと人を呼ぶようなものにつながっていかないだろうかというようなところがありました。

そんなところで、私自身としては教育とかに関心があって、この、これとこれを結ぶ教育の在り方っていうんですかね、開かれた学校という面もありますし、それから学校を応援していくという地域の力。学校を応援しながら、学校づくりを地域がやると。それがイコール学校づくりであるけれども、学校から見たらそれが地域づくりにつながっていくという、そういうことでの地域の活性化、あるいは、特に高齢者がそういうところで活躍することでさらにコミュニティも力を強めていくと。コミュニティ力ですね。そういうものを向上、目指していきたいなというところです。

以上で終わります。

(拍手)

○吉山委員

朝霞青年会議所の吉山と申します。よろしくお願いいたします。一番若いやつがやれっていうことで、半強制的にちょっと指名されましたが、どうぞよろしくお願いいたします。

私どものDグループはですね、純粋にどんな朝霞市にしたいかというところで、ちょっといろいろと出させていただきました。ちょっとほかのグループよりも枚数が少ないのですが、決してサボっていたわけではございませんので、御了承いただければと思います。

まず、道路という部分でですね、電柱のないさわやかなまちにしたいとか、まち全体の整備、歩道、ビルやマンションの高さが低いまちとか、ちょっと具体的などころも出ました。

また、自然のところでは緑豊かなまち、また畑が多いまち。

地域コミュニティに関しましては、「地域の中で暮らしていける市民力の活用」、また、「住民活動が盛んなまち」、そして「挨拶が飛び交うまち」。この挨拶が飛び交うまちというのは、ちょっとい

ろい意見があったんですけども、やはり近隣住民の無関心さや地域コミュニティの希薄化。そういうものが問題ではないのかという話もここでさせていただきました。

また、「健康」、「スポーツ」では、ウォーキングコース、また、市外の人が多数集まるイベント、スポーツ大会が盛んなまちというのが結構多かったですね。

あと、まちの魅力というところで、まちの魅力を生かせる、また市外の人が立ち寄る町、駅前が活性化しているまちというところがありました。

また、産業のところでは大型ショッピングモール、また昔からの商店街を守るべきという意見もございました。また、若い人がですね、どんどん集まって店を出せるような環境がやっぱり必要なのではないかという意見もございました。

また、公園という分類では、自然公園を作って守る、プレーパークを守る、子供の怪我を認めるまち、またボール遊びができる公園というところが、また、朝霞の森をまた使えるようにというところで、やはり今の子供、ボール遊びができる場所が非常に少ないんじゃないかとか、何か遊具や道具がないと遊び方を知らない子供が多いんじゃないかというところで、やはり自然が今不足しているんじゃないかというところがまとめとしてございました。

また、「災害」といたしましては、やはり大きく分けると子供やお年寄りが安全に暮らせる災害時の備品を、備蓄をできる。また、災害時の緊急連絡網がちょっと弱いんじゃないかという意見もございました。

また、「子育て」という分類ではですね、夜間保育だとか病気保育、若い人が住み続けられるようなまち、また子供を安心して預けられるようなまち。

そして医療の分野では、かかりつけの医者などがいっぱいあった方がいいんじゃないかというところでございました。

最終的には、やはり全てまちの魅力につながっていくのではないのかなというふうに、私個人的な見解で感じているところでございます。

以上でございます。ありがとうございました。

(拍手)

○沼田会長

はい、皆さんの発表を伺って、やっぱりやってよかったなという印象です。

ずいぶんいろんな材料が提出されたなと思います。もうちょっと、ちょっと時間をいただいて、お互いの違うグループに対して質疑応答とか、ここがよいというふうに褒めてあげてもいいと思いますけれども、自分のグループを越えた意見があれば、今どうぞ出してください。

○鈴木委員

さきほど向こうのBグループで発表された中に、「緑」という話が出てきましたけど、私もずっとよくこの辺りを散歩するんですけれども、大きくなっている木の中に木の名札が付いているんですね。例えばカシノキとかヒイラギとか、いろいろ木の名前が付いていますので、これは多分植えられた時に付けられたんだろうなと思ひまして、何科に属するとか、そういうのを見るにつけて非常に温かさを感じるんですね。だから、いろんな、ある木に分かる範囲で、地域の方がその地域のコミュニティをそれに加えながら木の名前を付けるという、そういうのは提案したいなあっていうのを、今、話を聞きながらふと思ったことなんですけれども、よろしくお願いいたします。

○斎藤委員

とても良いアイデアだと思います。私どものようにコンクリートに囲まれた生活をしておりますと、街を歩いていて、これは何の木なのかというのを忘れることは多々あります。特に小さい子なんて全く分からないわけですよ。そうしますと、そういうことが書いてありますと、それは理科の教育にもなります。もう一つ言うならば、樹齢など、何年に植林したのか、それとも種から植えたのか、そこまで書いておくと「この木って何年たったらこんなに大きくなるんだ。」ということも分かって、木のそれぞれの特性というものが出てくるんじゃないかと思ひますし、今の御意見で私もフト思ったのが、木だけではなくて、この朝霞市にいろんなお庭を持っている、草花を持っている方々も住んでいますね。御自身の庭に、これは菜の花だとか、これはサクラソウだとかいう、人に見てもらおうという札を付けてもいいんじゃないのかなというような気がします。庭はプライベートな空間なんですけれど、それを人に開放する、お互いに開放し合うということにすれば、より良く美しいまちになるのではないかなと思ひました。大変有り難い御意見だと思います。ありがとうございます。

○鈴木委員

ありがとうございます。

○沼田会長

そのほかございますか。

○佐野委員

多く出された意見としてあるのは、ハードウェアに関するものよりはソフトウェアに関するところが非常に多いかなと思ひます。確かに自然もハードウェアに絡むところがあるんですけれども、教育であるとかコミュニティだとか、そういったところはハードの面もないとは言いませんけれど、かなりの部分がソフトウェアに依存していると。そうすると人なわけですね。人を集めるとか人の中から何かを引き出すとか、そういったところをやっていかないとそこから先に進まないというところがあるんですけれど、多分もっとも難しい部分がそこなかなと。で、そこをどう解決す

るかというところが、かなり大事で一番難しいところで、そこが解決できればこれは日本中にモデルを提供できるくらいところがあると思うんですよね。そういった是非、何かモデル形成みたいなこともやれたらいいのかなという気もしました。

○沼田会長

今の御意見で島田委員、いかがですか。

○島田委員

今のをずっと聴いていてですね、実はこのグループの中でも報告していただきましたが、自然公園をつくって守ろうというような意見が出てきて、やっぱり朝霞の自然を守っていこうということだったんですけれど、住民自身に関わっていくということがすごく大事なかなと。今の木を植えるという話もありましたけれど、できれば子供たちや住民の皆さんが自分で木を植えてね、それで育てていくというようなことができれば、ずっと、あの木はどうなったんだろうというふうに、この朝霞の地に関心を持ち続けるということになるんじゃないでしょうか。ほかの話もみんな共通しているところがあって、教育に住民が関わるとかね、そういうふうに住民自身が全てのことに関わっていくというふうに話ができてシステムができていくといいなと思いました。

○沼田会長

いい意見ですね。

はい、そのほかございますか。

○田辺委員

先ほど、朝霞市立大学の話が出ていましたけれど夢物語のようにも聴こえちゃうかもしれません。ただこの間ね、文教都市というような話をちょっとさせていただいたんだけど、東洋大学さんがあってね、他力本願でいくなというお叱りも受けたわけですけど、私は、例えば東洋大学さんが福祉環境という学部があって、それで、例えば今、福祉に関してはね、いろいろと地域、介護保険絡みで地域密着型のいろんな施設がどんどんできてきているけれど、なかなかその人材育成だとか、人手が足りない状態でまたお金も回っていないし、なかなかその職場で食っていくのはきついし、またお金もよくないしね、というなかなか展望も開けない、でももしかしたらそういう大学で学部もそういう学部があって、どこの地域でそういうものが、いわゆる就職も含めてその何かモデル的にできないのかなとかね、今ちょっとお話を聴いている中でも感じたんですね。

現実的な話、そういうところから始めないと、その市立大学というのも私は夢としてはね、そういう方向を持っていくのはそれはそれで面白いなと思うんですけど、まずはそんなところからも難しいですかね。何かそういう可能性なりその他力本願じゃいけないと言われちゃうんですけど、そういうことでもできると何か面白いものが生まれるかなというふうに感じたんですけど。

どうでしょう。

○沼田会長

斎藤委員どうぞ。

○斎藤委員

はい、御意見ありがとうございました。

私は東洋大学の経営者でも理事長でも何でもない、ただの平委員、平教員なので、答えられるかどうか分かりませんが、まずは具体的な話ですと、大学、大東文化もそうだと思いますが、大学経営で一番金がかかるのは人件費なんですよ。だから大学教授の給料はどんどん安くなっているんですね。歩合制みたいになりかかって、年俸制になって、私なんていつ首切られるか分からないくらいでね。そのような非常にきついところがあります。要は人に対する金ですね。あと箱ものです。それさえ揃えば大体できちゃうということで、その意味では市立大学は簡単なんです。本当に。ですから、ちょっとそれは置いておいてですね。人件費なんです。だから、もし東洋大学にそういう学部をつくって、まず朝霞のところに持ってきたいとお考えならば、朝霞市が人件費を半分出せばいいんです。ただそれだけ。そうすればできますよ。板倉とかね、あの埼玉県の板倉だって、土地を提供します、いろんなものを提供します、と言って東洋大学を持ってきた。ただしあそこではDNA交換や、実験で、動物実験はするとか、いろいろ条件は付きましたけれど。だから、要はお金を幾ら朝霞市が出せるか。幾ら補助金を出せるかということが一番重要であります。ただそれだけお金を出すならば、朝霞市で独自につくってしまった方が自由です。だって横浜市だとか高崎市とかできているんですから。という話なんです、実現は可能だと思います。

いち平委員の、平の教員の意見です。

○田辺委員

いや、ちょっとね、私は大学だけの話じゃなくて地域経済とかね、一時期はやりの地域通貨みたいなね、とにかく地域の中でお金をもっと回らないのかなと、そこで稼げて生活もできて若い人たちもそこで暮らせてというね。そういう仕組みとしては確かに大学まであった方がいいなというのは確かにそう私もそう思うし、でも、東洋大学さんがあるからね、一緒に何かできないのかなと。

○沼田会長

中村先生の御提案でこのワークショップやってみたんですけれども、何か全体的な感想あれば。

○中村委員

私の意見を採用し、ワークショップを実施していただき、ありがとうございました。以前は、いろいろな場面でワークショップを行い、意見集約をしてきた経験がありますが、今回久しぶりにワークショップに参加し、さまざまな意見を出して楽しい時間でした。ただ、各グループからの報告

を聞いた後で、こうして振り返ってみると正直なところもっと提案すべき事項があったと思っています。ワークショップを行っている最中はなかなか思いつかなかったことが、皆さんの報告、意見を伺っていると「なるほど、そのようなことも、このようなこともあるな」と頭をよぎってきました。おそらく、このような思いを抱いているのは私だけではなく、ワークショップに参加した多くの方が同様の思いではないでしょうか。「実は、私も同じような意見を持っているのです」と。

そこで、可能であればもう一回全体で議論する時間を持ちたいという気がします。そのテーマとしては、今日のワークショップで出されたキーワードのいくつかを取り上げて、例えば「教育」、「子育て」、「まちづくり」、「コミュニティ」、「環境」などなど。もう少し突っ込んだ議論をしてみたいと思いました。以上です。

○沼田会長

ということは、このワークショップのパート2を次回っていう意味でしょうか。

○中村委員

必ずしも今回のワークショップのようなものでなくてもよいと思います。全体で議論する時間が持てればありがたいです。

○沼田会長

そうですか、はい、分かりました。

○佐野委員

私も、頭のハードウェアが劣化してましてですね、記憶力が不確かなものですから、次回が17日でしたかね。でしたら、その前に今日の何かまとめの的なものを作っていたら、非常にそういった助けになるなと思いますので、是非お願いします。

○事務局・田中市長公室長

それを予定しています。

○沼田会長

今回は、まとめたものを深掘りしながら集約に向かうというふうになるだろうと思います。

まだ、ちょっと時間ありますから、何かありますか。

○高橋委員

私たちのグループでは、伝統文化を継承していくという意見が出たんですけれども、それに対してAチームでは、若々しいチームでしたっけね。とても刺激的だなあと思ひまして、そういう発想も面白いなと思いました。で、それで伝統的な文化を継承しつつ、その若々しさを生かしたまちづくりというのは面白いなと思うんですけれども、これをやはり伝統文化を継承するのも大切だと思いますので、それを生かしつつどういうふうな、もし若々しさを取り入れたとするとどのようなコ

ンセプトにしていけばいいのかなっていうのが、ちょっとまだ考えがまとまらないのですけれども、ただ、とてもいいお考えだと思いましたので、そう思いました。

○沼田会長

はい、百武委員がまとめてくれたんですけれども、これ全国にちょっとないフレーズだよねっていうところが私たちの自慢で、若々しいというのがいろいろな意味に使えるので、これはひょっとしたら面白いんじゃないのということです。

そのほか何かございますでしょうか。

○小池委員

Aグループの小池です。今、若々しいというテーマに結論的になってそのことで御意見いただきましたけれども、そこにたどり着くプロセスの中で、やはり今、伝統になりつつある朝霞の彩夏祭。これを10年後も朝霞の自慢にできるようなイベントにしていきたい、もっと大切にしていきたいなど。こういうコンセプトのもとで意見がまとまりました。補足させていただきます。

○高橋委員

「伝統文化」で、やはり若い人が参加が少なくてお祭りが継承できないという問題があったと思いますので、そういう意味でも、例えば若い人が参加するっていう、参加、若い人が大勢の、若い市民が参加してまちづくりをする、文化を継承していくっていう、そういうまちづくりができればいいのかなとも今御意見伺って思いました。ありがとうございます。

○沼田会長

同感ですね。

◎3 その他

○沼田会長

そろそろ時間ですので、いったんここで締めて、また次回議論を深めたいというふうに思います。では、議事の3、その他について事務局より説明をお願いします。

○事務局・又賀主査

はい、事務局から2件ございます。次回は、本日開催通知を机の上に置かせていただきましたけれども、4月17日木曜日、午後3時から。場所は別館2階の全員協議会室で開催いたします。2点目は、今後については会議の冒頭会長からもございましたが、本日の会議で出された御意見を整理しまして、まとめたものを皆様に事前にお示ししますので、また次回の会議で御意見を伺いたいというふうに思います。

以上です。

○沼田会長

はい。今日、活発な実りある議論をしていただきましてありがとうございました。今後の予定としては大体5月中ぐらいには基本構想のうちの「将来像」、「基本方針」、「大綱の枠組み」という、この3つを方向付けたいということですね。

もう一回言います。「将来像」、「基本方針」、「大綱の枠組み」にあたる部分の大筋は、来月中にですね、何かぼんやりと絞り込んでいきたいなというふうに考えております。その辺を意識しながら是非、次回以降も活発な議論をお願いしたいと思います。

◎4 閉会

○沼田会長

皆さんから何か質問、御意見ございますでしょうか。

ないようでしたら次回、第7回審議会については、4月17日、木曜日、午後3時から別館2階の全員協議会室で開催いたします。以上を持ちまして、本日の会議を終了いたします。

御協力ありがとうございました。